

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-161983

(43)Date of publication of application : 19.06.1998

(51)Int.Cl.

G06F 15/02

G06F 15/02

G06F 15/02

(21)Application number : 08-317882

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 28.11.1996

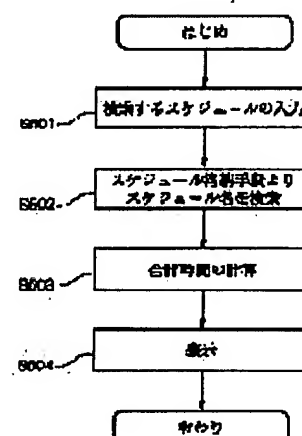
(72)Inventor : HATORI KENJI

(54) DEVICE AND METHOD FOR MANAGING SCHEDULE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To find total time consumed for one schedule by equally handling schedules existent on different dates/times and having the same schedule name when managing the schedule.

SOLUTION: The name of schedule to be detected is inputted (step S501), and the schedules having the inputted name are retrieved from a schedule storage means for storing the schedules corresponding to their names and date/time information (step S502). Next, based on the date/time information of schedules provided by the retrieval, the total time required for that scheduling is calculated (step S503) and the calculated total time is displayed (step S504).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 29.06.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 24.09.2002

[Kind of final disposal of application other than the
examiner's decision of rejection or application
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-161983

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月19日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 15/02

識別記号

3 5 5

3 3 0

3 5 0

F I

G 0 6 F 15/02

3 5 5 A

3 3 0 Q

3 5 0 A

審査請求 未請求 請求項の数20 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平8-317882

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 11月28日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子 3 丁目30番 2 号

(72) 発明者 羽鳥 健司

東京都大田区下丸子 3 丁目30番 2 号キヤノ
ン株式会社内

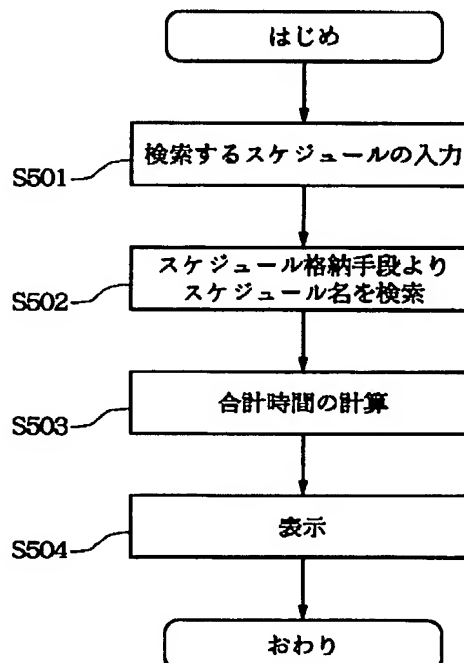
(74) 代理人 弁理士 丸島 健一

(54) 【発明の名称】 スケジュール管理装置及び方法

(57) 【要約】

【課題】 スケジュールを管理する際に、異なる日時に存在する同じスケジュール名を持つスケジュールを同一のものとして扱うことで、1つのスケジュールに費やした合計時間を求める。

【解決手段】 検出しようとするスケジュールの名称を入力し(ステップS501)、入力された名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検索し(ステップS502)、検索より得られたスケジュールの日時情報に基づいて、該スケジュールに費やされた合計時間を算出し(ステップS503)、算出された合計時間を表示する(ステップS504)。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、スケジュールの名称を指示する指示手段と、前記指示手段により指示された名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出する検出手段と、前記検出手段により検出されたスケジュールの日時情報に基づいて、該スケジュールに費やされた合計時間を算出する算出手段と、前記算出手段により算出された合計時間を表示する表示手段とを具備したことを特徴とするスケジュール管理装置。

【請求項2】 前記表示手段が、前記算出手段により算出された合計時間と共に、前記検出手段により検出されたスケジュールの名称と日時情報を表示することを特徴とする請求項1記載のスケジュール管理装置。

【請求項3】 名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、索引作成を指示する指示手段と、前記指示手段による索引作成の指示に基づいて、互いに同一の名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出する検出手段と、前記検出手段により検出された互いに同一の名称を持つスケジュールの日時情報をまとめ、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報とに関する索引を作成する索引作成手段と、前記索引作成手段により作成された索引を表示する索引手段とを具備したことを特徴とするスケジュール管理装置。

【請求項4】 前記索引作成手段は、スケジュールの名称を五十音順に配列した索引を作成することを特徴とする請求項3記載のスケジュール管理装置。

【請求項5】 前記索引作成手段は、スケジュールの名称をアルファベット順に配列した索引を作成することを特徴とする請求項3記載のスケジュール管理装置。

【請求項6】 カレンダーを格納するカレンダー格納手段と、前記カレンダー格納手段に格納されたカレンダー上に、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報の組み合わせを表示するスケジュール表示手段と、前記索引表示手段による表示と前記スケジュール表示手段による表示を切替える切替え手段とを具備したことを特徴とする請求項3記載のスケジュール管理装置。

【請求項7】 名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールに関連する文書画像データを、該スケジュールに対応付けて格納するデータ格納手段と、スケジュールの名称を指示する指示手段と、

前記指示手段により指示された名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出するスケジュール検出手段と、前記スケジュール検出手段により検出されたスケジュールに関連する文書画像データを、前記データ格納手段から検出するデータ検出手段と、前記データ検出手段により検出されたデータを表示する表示手段とを具備したことを特徴とするスケジュール管理装置。

10 【請求項8】 前記データ検出手段が、複数の文書画像データを検出することを特徴とする請求項7記載のスケジュール管理装置。

【請求項9】 前記表示手段が、前記データ検出手段により検出されたデータを、書籍の形態を模したユーザインタフェースを用いて表示することを特徴とする請求項7記載のスケジュール管理装置。

【請求項10】 前記表示手段が、前記データ検出手段により検出されたデータを、カード型ファイルの形態を模したユーザインタフェースを用いて表示することを特徴とする請求項7記載のスケジュール管理装置。

20 【請求項11】 スケジュールの名称を指示する指示工程と、前記指示工程で指示された名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出する検出工程と、前記検出工程で検出されたスケジュールの日時情報に基づいて、該スケジュールに費やされた合計時間を算出する算出工程と、

30 前記算出工程で算出された合計時間を表示する表示工程とを具備したことを特徴とするスケジュール管理方法。

【請求項12】 前記表示工程において、前記算出工程で算出された合計時間と共に、前記検出工程で検出されたスケジュールの名称と日時情報を表示することを特徴とする請求項11記載のスケジュール管理方法。

【請求項13】 索引作成を指示する指示工程と、前記指示工程での索引作成の指示に基づいて、互いに同一の名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出する検出工程と、

40 前記検出工程で検出された互いに同一の名称を持つスケジュールの日時情報をまとめ、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報とに関する索引を作成する索引作成工程と、

前記索引作成工程で作成された索引を表示する索引工程とを具備したことを特徴とするスケジュール管理方法。

【請求項14】 前記索引作成工程において、スケジュールの名称を五十音順に配列した索引を作成することを特徴とする請求項13記載のスケジュール管理方法。

50 【請求項15】 前記索引作成工程において、スケジュールの名称をアルファベット順に配列した索引を作成す

ることを特徴とする請求項13記載のスケジュール管理方法。

【請求項16】 カレンダー格納手段に格納されたカレンダー上に、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報の組み合わせを表示するスケジュール表示工程と、

前記索引表示工程での表示と前記スケジュール表示工程での表示を切替える切換え工程とを具備したことを特徴とする請求項13記載のスケジュール管理方法。

【請求項17】 スケジュールの名称を指示する指示工程と、

前記指示工程で指示された名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出するスケジュール検出工程と、

前記スケジュール検出工程で検出されたスケジュールに関連する文書画像データを、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールに関連する文書画像データを該スケジュールに対応付けて格納するデータ格納手段から検出するデータ検出工程と、

前記データ検出工程で検出されたデータを表示する表示工程とを具備したことを特徴とするスケジュール管理方法。

【請求項18】 前記データ検出工程において、複数の文書画像データを検出することを特徴とする請求項17記載のスケジュール管理方法。

【請求項19】 前記表示工程において、前記データ検出工程で検出されたデータを、書籍の形態を模したユーザインタフェースを用いて表示することを特徴とする請求項17記載のスケジュール管理方法。

【請求項20】 前記表示工程において、前記データ検出工程で検出されたデータを、カード型ファイルの形態を模したユーザインタフェースを用いて表示することを特徴とする請求項17記載のスケジュール管理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はデータベース機能を有するスケジュール管理装置及び方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より個人のスケジュールを電子的に管理するための装置及び方法が提供されていた。これは、例えば図11のようにカレンダー状の画面を表示して、各日付けに対応付けて過去のできごとや未来の予定（以下ではこれらをまとめてスケジュールと呼ぶ）とその開始時間や終了時間等を入力することができた。また、図11中のボタン1100やボタン1101を利用して、画面を他の年月日に切り替えて他の日付に関するスケジュールを入力したり閲覧したりすることができた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、従来のスケジュール管理装置及び方法においては、同じスケジュール名を異なる日時に入力しても、それが同一のものとは扱われず、その結果、次のような問題点があった。

【0004】まず、異なる日時における同一のスケジュールに費やされた時間を合計して計算することができず、いちいち手計算で個別のスケジュールに費やされた時間を求めさらにそれらを合計する必要がある大変煩雑であった。

【0005】また、すべてのスケジュール名を単に羅列するだけの一覧表を作成するものはあったが、同一のスケジュール名があればそれらをまとめて（例えば1行で）表示するような索引形式の一覧表を作る機能が備わっていなかった。

【0006】さらに、各スケジュールに対してそれに関連の深いデータ（文書ファイルなど）をリンクさせた場合、同一のスケジュール名を持つスケジュールに関連するデータをひとまとまりにして、閲覧したり保存することができなかった。

【0007】以上の問題点を鑑み、本発明の目的はスケジュール管理システムにおいて異なる日時に存在する同じスケジュール名を持つスケジュールを同一のものとして扱うことで、1つのスケジュールに費やした合計時間を自動的に求め、さらに同一のスケジュール名をまとめて表示する索引を作り、また1つのスケジュールに関連したデータをひとまとまりにして、閲覧したり保存する機能を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、本発明におけるスケジュール管理装置は、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、スケジュールの名称を指示する指示手段と、前記指示手段により指示された名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出する検出手段と、前記検出手段により検出されたスケジュールの日時情報に基づいて、該スケジュールに費やされた合計時間を算出する算出手段と、前記算出手段により算出された合計時間を表示する表示手段とを設けた。

【0009】また、本発明におけるスケジュール管理装置は、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、索引作成を指示する指示手段と、前記指示手段による索引作成の指示に基づいて、互いに同一の名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出する検出手段と、前記検出手段により検出された互いに同一の名称を持つスケジュールの日時情報をまとめ、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報とに関する索引を作成する索引作成手段と、前記索引作成手段により作成された索引を表示する索引手段とを設けた。

【0010】また、本発明におけるスケジュール管理装置は、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段と、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールに関連する文書画像データを、該スケジュールに対応付けて格納するデータ格納手段と、スケジュールの名称を指示する指示手段と、前記指示手段により指示された名称を持つスケジュールを前記スケジュール格納手段から検出するスケジュール検出手段と、前記スケジュール検出手段により検出されたスケジュールに関連する文書画像データを、前記データ格納手段から検出するデータ検出手段と、前記データ検出手段により検出されたデータを表示する表示手段とを設けた。

【0011】また、上記の課題を解決するために、本発明におけるスケジュール管理方法は、スケジュールの名称を指示する指示工程と、前記指示工程で指示された名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出する検出工程と、前記検出工程で検出されたスケジュールの日時情報に基づいて、該スケジュールに費やされた合計時間を算出する算出工程と、前記算出工程で算出された合計時間を表示する表示工程とを設けた。

【0012】また、本発明におけるスケジュール管理方法は、索引作成を指示する指示工程と、前記指示工程での索引作成の指示に基づいて、互いに同一の名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出する検出工程と、前記検出工程で検出された互いに同一の名称を持つスケジュールの日時情報をまとめ、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールの名称と日時情報とに関する索引を作成する索引作成工程と、前記索引作成工程で作成された索引を表示する索引工程とを設けた。

【0013】また、本発明におけるスケジュール管理方法は、スケジュールの名称を指示する指示工程と、前記指示工程で指示された名称を持つスケジュールを、名称と日時情報とを対応付けたスケジュールを格納するスケジュール格納手段から検出するスケジュール検出工程と、前記スケジュール検出工程で検出されたスケジュールに関連する文書画像データを、前記スケジュール格納手段に格納されたスケジュールに関連する文書画像データを該スケジュールに対応付けて格納するデータ格納手段から検出するデータ検出工程と、前記データ検出工程で検出されたデータを表示する表示工程とを設けた。

【0014】

【発明の実施の形態】図1は本実施形態の構成例を表す図である。同図において101はカレンダー情報を格納するカレンダー格納手段である。ここでいうカレンダー情報とは、任意の年あるいは月、週等に対応するカレンダーを生成するための情報のことである。

10

20

30

40

50

【0015】102はスケジュール名とそのスケジュールが起こったあるいは起こる予定である日時とを対応付けて格納するスケジュール格納手段であり、例えば図3のように構成されている。同図において、301はスケジュール名を表しており、302はそのスケジュールの開始日時、303は終了日時を表しており、306は各スケジュールを一意に示す番号であるスケジュール番号を表している。また304、305、307、308、309はそれぞれ1つのスケジュールを表している。これらの情報はユーザが任意に作成することができる。

【0016】106は、スケジュール格納手段102中のスケジュールあるいは特定の日時と、それに関連付けられた文書や画像などのデータとを対応付けて格納するデータ格納手段であり、例えば図2のように構成されている。

【0017】同図において201はデータを表しておりここではファイル名で代表させている。この他にはデータそのものやそのデータを作成したアプリケーションのアイコン等の情報も持たせることができる。202はデータと関連付けられたスケジュールのスケジュール番号を表しており、例えば「資料1.doc」というデータは図3におけるスケジュール番号「1」の「プロジェクトA打ち合わせ」というスケジュールと関連が深い(例えばその打ち合わせで配布した等)ということを表している。203はデータと関連付けられている日時を表しており、例えば「実験画像.bmp」というデータは「1994年12月7日10:00」という日時と関連が深い(例えばこの時間の発表に用いた等)ということを表している。

【0018】このようにデータはスケジュールまたは日時に対応付けることができ、このような関連付けはユーザによって任意に行うことができる。

【0019】103は、その内部に記憶されたコンピュータプログラムに基づいて、カレンダー格納手段101中のカレンダー情報とスケジュール格納手段中のスケジュールに関する情報との対応を取ることににより、カレンダー状の画面の上に個人のスケジュールを表示する管理手段であり、例えば図4のような画面を表示する。

【0020】同図は図3のスケジュール格納手段102中の情報を基にしており、例えば図3のスケジュール307の内容は、図4では400に示されている。401はスケジュールの日付であり、402はスケジュールの開始時刻及び終了時刻であり、403はスケジュール名を表している。さらに、管理手段103はデータ格納手段106中のデータを、前述のカレンダー上に合わせて表示することもできる。

【0021】この場合、例えば図7のように、スケジュールに対応付けられているデータ(同図701など)はカレンダー上のそのスケジュールの横などの場所に表示され、日時に対応付けられているデータ(同図702)

はその日時が開始日時と終了日時に含まれるスケジュールの横などの場所に表示される。同図ではデータをファイル名で代表させて表現している。ファイル名の代わりにデータを作成したアプリケーションのアイコンやデータの内容の縮小表現で各データを代表させても良い。

【0022】104は、前記管理手段103が表示を行う表示手段であり、さらに他の様々な情報をユーザに対して提示する。

【0023】105はユーザが様々な入力を行う入力手段である。

【0024】次に、本実施形態の動作に関して説明する。以下の動作は、管理手段103内に記憶されたコンピュータプログラムによって実現される。図5はスケジュールに費やした合計時間を計算し表示する際の動作を表すフローチャートである。

【0025】まずステップS501においてユーザが合計時間を求めたいスケジュールの名前を入力手段105により入力すると、管理手段103はステップS502において指定されたスケジュール名をスケジュール格納手段102よりすべて検索する。例えば、ステップS501においてユーザが「プロジェクトA打ち合わせ」と入力した場合、もしスケジュール格納手段102が図3のようであれば、図3中のスケジュール304とスケジュール305が該当する。

【0026】そして次に、ステップS503において、管理手段103はステップS502において検索した各スケジュールの開始日時及び終了日時を基にそのスケジュールに費やされた時間を求め、さらにそれらの和を求める。先の例でいえば、スケジュール304に費やされた時間は2時間であり、またスケジュール305において費やされた時間は2時間であり、従って合計時間は4時間となる。

【0027】次に管理手段103はステップS504において表示手段104に対して、ステップS503で求めた合計時間の表示を行う。この表示する形態の例を図6に示す。同図において、601はユーザが入力したスケジュール名であり、602は前記スケジュール名を持つスケジュールの開始日時と終了日時であり、603は本動作において求めた合計時間を表している。

【0028】次に、本実施形態のシステムを用いてスケジュール名による索引を作成する際の動作について図13のフローチャートを用いて説明する。

【0029】まず、ステップS1301においてユーザが索引作成を指示すると、ステップS1302において管理手段103はスケジュール格納手段102より同一のスケジュール名を持つスケジュールを探し出す。例えば、もしスケジュール格納手段102が図3のようであれば、同図中のスケジュール304とスケジュール305で示されるスケジュールが同一のスケジュール名を持っている。

【0030】そしてステップS1303において、同一のスケジュール名を持つスケジュール同士をまとめて、また同じスケジュール名のないスケジュールは単独で表示し、さらに各スケジュールに対してスケジュール格納手段102中の他の情報（開始日時や終了日時）も表示する。ここで、管理手段103が日本語文字の読み方を保持し、それによってスケジュール名を50音順に並べて表示する。また、スケジュール名が英語であればアルファベット順に並べて（これは英字の文字コードを用いることもできる）表示する。この場合の表示例を、先の例を用いて図8に示す。

【0031】同図において、804はスケジュール名を示しており、805はスケジュールの開始日時を示しており、803はスケジュール名を分類して読みやすくするためにスケジュール名の先頭1文字目の読み方（日本語の場合）あるいは1文字目そのもの（英語の場合）を表現するものである。また、同図において801は「プロジェクトA打ち合わせ」というスケジュール名がまとめて表示されている様子を示している。

【0032】このような表示画面は、本実施形態のスケジュール管理システムの索引として用いることができ、同画面上で1つの項目（例えばスケジュール名と開始日時の組み合わせ）を指定することにより、前述の図4や図7で示したような個人のスケジュールをカレンダーの上に表示する画面に切り替えることができる。例えば、図8における802で示した項目を入力手段105であるポインティングデバイス（マウスなど）で指示すると、それに対応する年月日及び時間が含まれる図4のような画面に切り替わる。

【0033】次に、本実施形態のシステムを用いて、同じスケジュール名に対応付けられているデータを検索し、まとめて表示する際の動作について図9のフローチャートを用いて説明する。また、ステップS901においてユーザがスケジュール名を入力すると、ステップS902において管理手段103は入力されたスケジュール名を持つスケジュールをスケジュール格納手段102より検索し、該当するスケジュール番号並びに開始日時・終了日時を取得する。

【0034】例えば、スケジュール格納手段102が図3のようであった場合に、ユーザがスケジュール名として「プロジェクトA打ち合わせ」を入力すると、同図中のスケジュール304とスケジュール305が検索され、スケジュール304よりスケジュール番号「1」と開始日時「1994年12月7日10:00」と終了日時「1994年12月7日12:00」を取得し、さらにスケジュール305よりスケジュール番号「4」と開始日時「1994年12月6日15:00」と終了日時「1994年12月6日17:00」を取得する。

【0035】次に、ステップS903において管理手段103はデータ格納手段106より、ステップ902で

検索されたスケジュール番号に対応付けられたデータ、及びステップS902で取得した開始日時と終了日時の範囲内の日時に対応付けられたデータを検索する。先の例でいえば、前者のデータは図2中の204と205であり、後者のデータは図2中の206が該当する。

【0036】次に、ステップS904において管理手段は検索されたデータを一定の形式でまとめて表示を行う。図10はその形式の1例である。同図ではアルバムの形式を模しており、検索された各データの内容が縮小されてアルバムのページに表示されている。他には図12のようなカードホルダ形式などの表示形式をとることも可能であり、この場合はアルバムと異なり1枚のカードに1つのデータを表示することになる。

【0037】図10の1001は、検索に用いたスケジュール名を示しておりアルバムのタグの形状を模している。各データの表示方法に関しては、その内容を縮小したものではなく、そのデータを作成したアプリケーションのアイコンで示しても良い。

【0038】また本動作においては、他のスケジュール名による同様なデータ検索を行うことも可能であり、その場合は前記の同じアルバム上にページを変えるなどして検索されたデータを表示することができる。さらに、このアルバム等の表示形態を保存して、後で本発明のスケジュール管理システムによって呼び出し閲覧することも可能である。この機能は、例えば、アルバム等の形状は管理手段103が持ち、さらにデータがアルバムのどのページに表示されているかの情報をデータと関連付けてデータ格納手段106が保持することで実現することが可能である。

【0039】

【発明の効果】以上説明してきたように、本発明によれば、スケジュール管理装置及び方法において複数の日時に分散して行われた同じスケジュールに費やした合計時間を求めることができ、手動で計算するよりも効率がよくかつ正確に計算することが可能になる。

【0040】また、本発明によれば、スケジュール管理システムにおいてスケジュール名による索引を作成しさらに索引上のスケジュール名と日時を指示することでカレンダー上でスケジュールが表示される画面に切り替わるので、ユーザはスケジュール管理システムの画面を所望のスケジュールが表示されるように切り替えるための操作を、スケジュールを選択し指示するだけで即座にまた簡単に行うことができる。また、索引は同一のスケジュール名ごとにまとめて作成されるので、単にスケジュール名を羅列するよりも表示にかかる領域を小さくすることができさらに索引を効率よく縦覧することが可能になる。

【0041】また、本発明によれば、前記索引中のスケジュール名が読み方の50音順に配列されるので、日本語で書かれたスケジュール名が整理されてユーザにとっ

て読みやすくなる。

【0042】また、本発明によれば、前記索引中のスケジュール名が読み方のアルファベット順に配列されるので、英語で書かれたスケジュール名が整理されてユーザにとって読みやすくなる。

【0043】また、本発明によれば、スケジュール管理システムにおいて同一のスケジュール名に対応付けられたデータを検索しそれらをまとめて表示し保存することができるので、様々なデータの中からあるスケジュールに関連するデータを取り出して閲覧することができ、さらにそれを保存することによってスケジュールごとにデータをまとめて保管し後で閲覧することができる。

【0044】また、本発明によれば、スケジュール管理システムにおいて同一のスケジュール名に対応付けられたデータ及びそのスケジュールと対応している日時と対応付けられたデータも検索し、それらをまとめて表示し保存することができるので、様々なデータの中からあるスケジュールと明示的に対応付けられているデータだけでなくスケジュールの起きた日時と対応付けられたデータも取り出すことができ、さらにそれを保存することによってスケジュールごとにデータをまとめて保管し後で閲覧することができる。

【0045】また、本発明によれば、検索されたデータは書籍の形態を模したユーザインタフェースを用いて表示されるので、複数のデータを1つのページに表示させることで面積効率よくデータを表示させることができ、さらにユーザは日常の書籍のページを繰る要領で簡単な操作で次々とデータを表示させることができる。

【0046】また、本発明によれば、検索されたデータはカードファイルの形態を模したユーザインタフェースを用いて表示されるので、1つのページに1つのデータを表示させることでデータを閲覧しやすく配置することができ、さらにユーザは日常のカードファイルを繰る要領で簡単な操作で次々とデータを表示させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の構成例を示す図である。

【図2】データ格納手段の内容を表す図である。

【図3】スケジュール格納手段の内容の例を表す図である。

【図4】個人のスケジュールを表示する画面の例を表す図である。

【図5】スケジュールに費やした合計時間を計算し表示する際の動作を表すフローチャートである。

【図6】スケジュールに費やした合計時間の表示例を表す図である。

【図7】個人のスケジュール及びスケジュールと関連のあるデータを表す画面の例を表す図である。

【図8】索引の表示例を表す図である。

【図9】同じスケジュールに名に対応付けられているデ

ータを検索しまとめて表示する際の動作を表すフローチャートである。

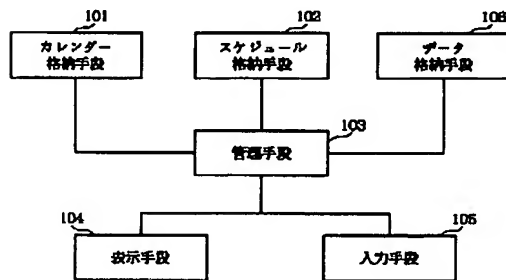
【図10】同じスケジュールに名に対応付けられているデータがアルバム状にまとめて表示された例を表す図である。

【図11】従来のスケジュール管理システムが表示する画面の例を表す図である。

【図12】同じスケジュールに名に対応付けられているデータがカードホルダ状にまとめて表示された例を表す図である。

*10

【図1】



【図2】

	201 データ	202 スケジュール番号	203 日時
204	資料1.doc	1	
205	資料2.doc	4	
206	画像画像.bmp		1994年12月7日10:00
	山登り.bmp	5	
	旅館にて.jpg	5	
	海水浴.bmp	5	
	遊園地.bmp	5	

【図3】

	301 スケジュール番号	302 スケジュール名	303 開始日時	304 終了日時
306	1	プロジェクトA打ち合わせ	1994年12月7日10:00	1994年12月7日12:00
307	2	Xグループ定例会	1994年12月9日9:00	1994年12月9日17:00
308	3	忘年会	1994年12月5日18:00	
305	4	プロジェクトA打ち合わせ	1994年12月8日15:00	1994年12月8日17:00
309	5	伊豆旅行	1994年12月10日	1994年12月11日

【図6】

601 スケジュール名: プロジェクトA打ち合わせ

602 日時: 12月8日(火) 15:00~17:00
12月7日(水) 10:00~12:00

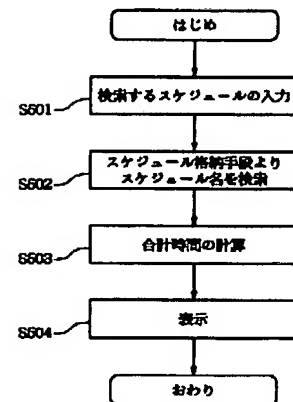
603 合計時間: 4時間

*【図13】スケジュール名による索引を作成する際の動作を表すフローチャートである。

【符号の説明】

- 101 カレンダー格納手段
- 102 スケジュール格納手段
- 103 管理手段
- 104 表示手段
- 105 入力手段
- 106 データ格納手段

【図5】



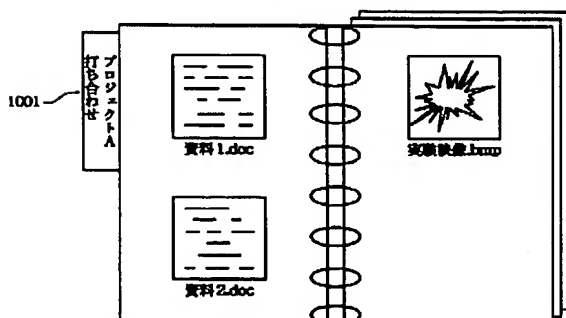
【図4】

1994年12月		
日付	時間	スケジュール名
4日(日)		
6日(月)	18:00	忘年会
8日(火)	15:00~17:00	プロジェクトA打ち合わせ
7日(水)	10:00~12:00	プロジェクトA打ち合わせ
8日(木)		
9日(金)	9:00~17:00	Xグループ定例会
10日(土)		伊豆旅行

【図7】

1994年12月			
日付	時間	スケジュール名	データ
4日(日)			
6日(月)	18:00	忘年会	
8日(火)	15:00~17:00	プロジェクトA打ち合わせ	資料2.doc 701
7日(水)	10:00~12:00	プロジェクトA打ち合わせ	資料1.doc 702 実験画像.bmp
8日(木)			
9日(金)	9:00~17:00	Xグループ定例会	
10日(土)		伊豆旅行	山盛り.bmp 海水浴.bmp 旅館にて.jpg 遊覧船.bmp

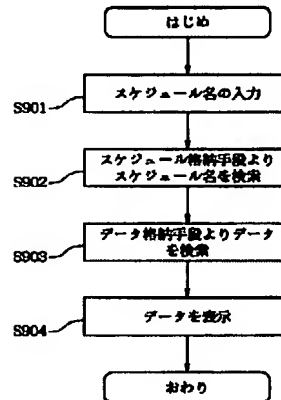
【図10】



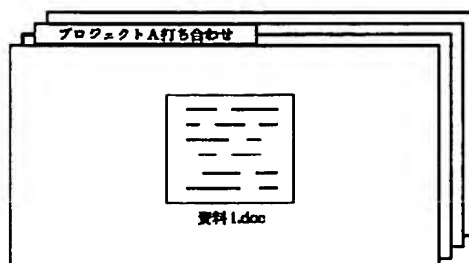
【図8】

スケジュール名		開始日時
[い]	伊豆旅行	1994年12月10日
[ふ]	プロジェクトA打ち合わせ	1994年12月7日10:00 1994年12月8日15:00
[ほ]	忘年会	1994年12月5日18:00
[x]	Xグループ定例会	1994年12月9日9:00

【図9】



【図12】



【図11】

1100 1100 前年へ 次年へ		1990年12月					1101 1101 前月へ 次月へ	
日	月	火	水	木	金	土		
1	2 15:00 連絡会	3	4	5	6	7		
8	9	10	11 12:00 昼食会	12	13	14		
15	16	17	18	19	20 14:00 忘年会	21		
22	23	24	25	26	27	28		
29	30	31						

【図13】

